

京都駅東部エリア活性化将来構想

（答申案）

目 次

I	構想策定について	1
1	構想策定の背景と目的	1
2	構想策定の基本事項	2
II	本エリアのポテンシャルと課題	4
1	ポテンシャルと課題の概要	4
2	人口・高齢化・コミュニティ	5
3	集客・観光・地域資源	7
4	文化芸術	9
III	京都駅東部エリアの将来ビジョン	11
IV	将来ビジョンを実現させるための方策	12
1	3つの方策	12
2	推進項目	13
V	構想実現に向けて	28

I 構想策定について

1 構想策定の背景と目的

京都駅東部エリア（以下「本エリア」といいます。）は、世界と京都をつなぐ玄関口・京都駅北側周辺から、鴨川の東側にある三十三間堂、京都国立博物館など東山の文化ゾーンへと続く地域です。

本エリアには、梅小路公園を中心とする「京都駅西部エリア」と京都駅、東山とを結び、交流や賑わいの創出が期待される東西の「新たな文化軸」と、鴨川、高瀬川といった南北の「悠久の自然・文化軸」の二つの軸が交差する、いわば「文化の十字路」が存在します。近年、京都美術工芸大学京都東山キャンパスが開校され、今後も京都市立芸術大学や京都市立銅駝美術工芸高等学校の移転が予定されるなど、文化芸術の新しい動きが生まれる“火床”となる場所であり、国内外から多くの人々が集まり、交流し、世界へ広がる創造の一大拠点となることが期待されます。

本エリアでは、これまでから、地域性、歴史性を大切にした地域を主体とするまちづくりが連綿と培われてきています。なかでも、下京渉成小学校区の5学区では、京都市立芸術大学の移転までのプロセスを大切にしながら、「京都市立芸術大学を核とした崇仁エリアマネジメント」の構築に取り組まれており、京都の玄関口にふさわしい個性豊かで魅力的なまちづくりが進められています。

また、周辺地域に関して、京都市では、平成27年3月に「京都駅西部エリア活性化将来構想」、平成29年3月に「京都駅東南部エリア活性化方針」をすでに策定しています。とりわけ、京都駅東南部エリアは、本エリアと鴨川、高瀬川などの南北軸で繋がり、京都市立芸術大学移転予定地に近接していることなどから、「文化芸術」と「若者」に重点を置いた新たなまちづくりを進めているところです。

京都市は、市会の議決を得て、昭和53年10月に「世界文化自由都市宣言」を行いました。以来、この宣言を都市理念に掲げ、「広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市」の実現に向けて、都市経営を進めてきました。

文化庁の京都への全面的な移転が決定されるなど、文化芸術によるまちづくりの機運が高まる中、本エリアの様々な主体が将来ビジョンを共有し、京都駅周辺エリアの多層な機能の連携により、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンを創生するため、「京都駅東部エリア活性化将来構想」を策定するものです。

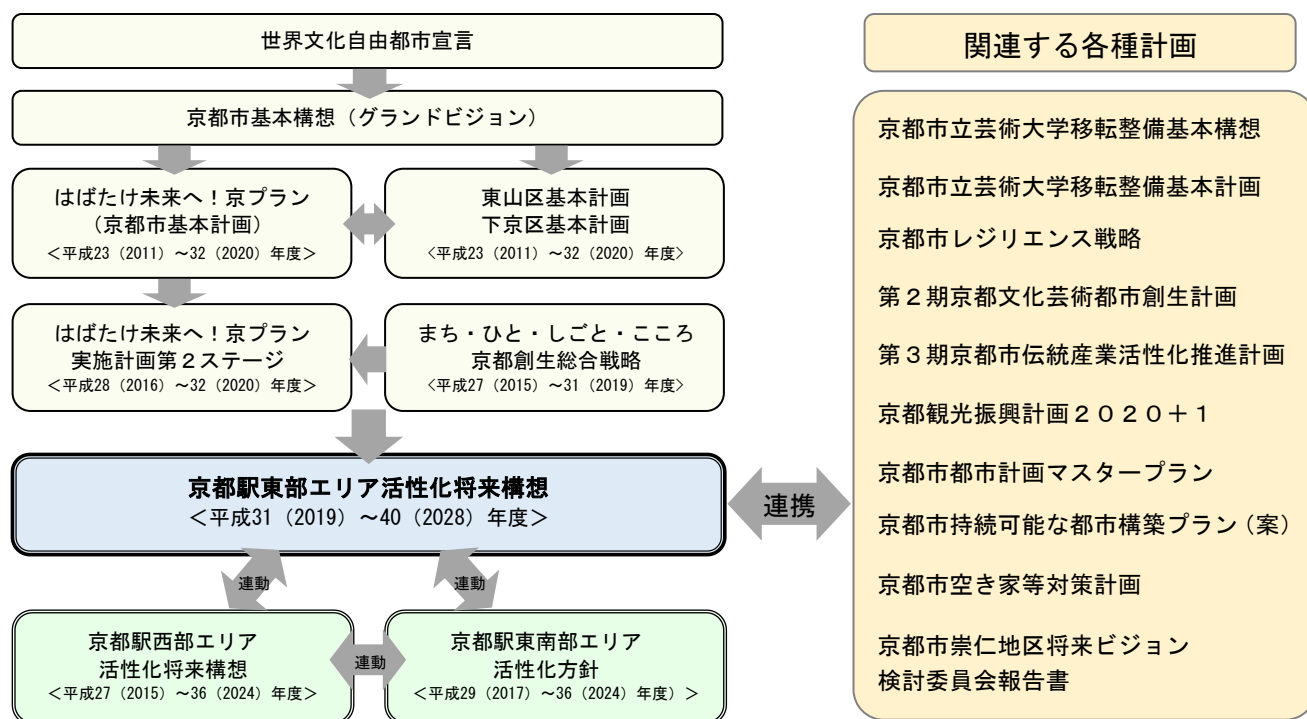
2 構想策定の基本事項

① 期間

長期的な見地に立った将来ビジョンと目指すべき将来像を設定し、それらの実現に向けて、おおよそ今後10年間（平成31（2019）～40（2028）年度）で取り組むべき3つの方策と具体的な推進項目を取りまとめました。

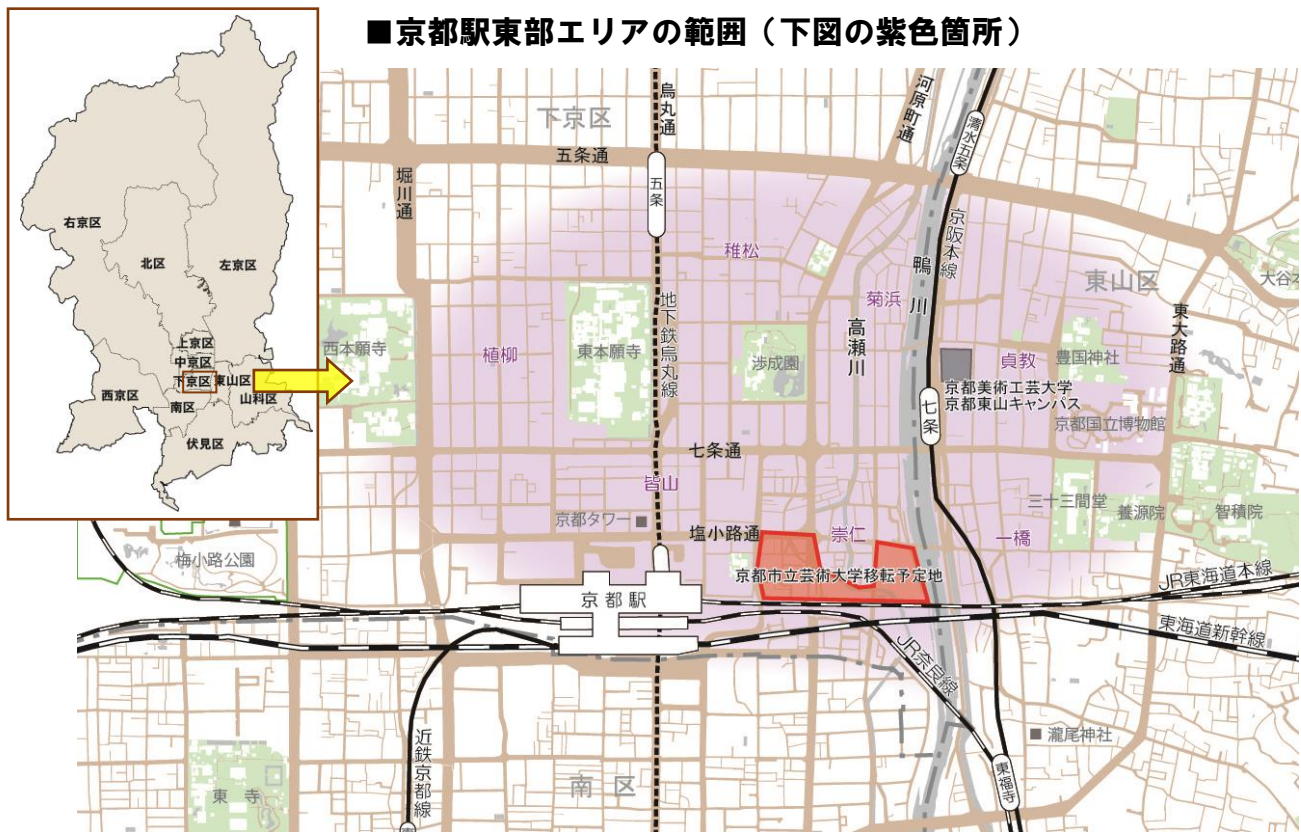
なお、平成35年度（2023年度）の京都市立芸術大学の移転や京都駅東南部エリア活性化方針（平成29（2017）～36（2024）年度）など、京都駅周辺の各種構想等との関連性を考慮し、必要に応じて、見直しを検討します。

■構想の位置付けイメージ



② 対象エリア

「京都市立芸術大学を核とした崇仁エリアマネジメント」の構築に取り組む下京渉成小学校区の5学区（植柳、稚松、菊浜、皆山及び崇仁学区）を中心に、鴨川の東側にある「京都国立博物館」や「三十三間堂」などに続くエリア一帯【概ね次頁図の紫色の範囲】を「京都駅東部エリア」と位置付け、対象エリアとしました。



③ 策定に当たっての基本的な考え方

- 文化芸術と経済、大学、まちづくり、教育、福祉など、様々な分野との有機的な連携を図り、持続可能なまちづくりや新たな魅力、価値の創出に取り組むことにより、京都全体の活性化を牽引します。

また、京都駅西部エリア、東南部エリアなど、京都駅周辺エリアのまちづくりとも連動させながら、活性化に取り組みます。

- 多様な、多世代の人々が交流することにより、豊かなコミュニティにつながるまちづくりを推進します。
- 市民、地域、大学、事業者など、様々な主体が、まちの将来ビジョンを共有し、各自が、相互に尊重し合いながら、「じぶんごと」「みんなごと」としてビジョンの実現に取り組みます。

考慮する視点：SDGs（持続可能な開発目標）

SDGsとは、人権、格差是正、環境、平和などの観点から、持続可能な社会の実現を国際社会全体で目指す17の普遍的なゴール（目標）であり、平成27年（2015年）9月、国連において採択されました。

SDGsの中には、例えば、ゴール④「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」ことやゴール⑩「都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする」ことなど、京都市立芸術大学の移転などを契機として、文化芸術によるまちづくりを進めようとする本構想の策定に当たり、重要な視点が含まれています。

これらを踏まえ、本エリアの活性化に取り組むことにより、京都ならではのSDGsの実現に寄与します。

II 本エリアのポテンシャルと課題

1 ポテンシャルと課題の概要

人口・高齢化・コミュニティ

ポテンシャル

- 定住人口増加の可能性
- 崇仁学区における市有地の活用
- 地域が主体となったコミュニティ活動
- 芸術系大学と地域との交流や協働によるまちづくり

課題

- 人口減少、高齢化の進展への対応
- 崇仁学区の将来活用地の活用の検討
- まちづくり活動と地域コミュニティの更なる活性化
- 空き家への対策

集客・観光・地域資源

ポテンシャル

- 魅力的な歴史・文化資源や潤い資源などの存在
- 「崇仁新町」など新しい賑わい創出の動き
- 京都駅周辺における商業機能の集積
- 京都駅と市内観光地等への充実した交通網

課題

- 回遊性の向上や賑わいの創出
- 観光と市民生活との調和

文化芸術

ポテンシャル

- 芸術系大学や文化芸術に関連する施設等の存在
- 文化芸術や伝統産業など、様々な分野の担い手の存在
- 芸術系大学の立地によるその周辺の都市景観の向上
- 京都駅西部エリア・京都駅東南部エリアとの連携

課題

- 文化芸術や伝統産業など、様々な分野の担い手が活躍できる環境整備
- 文化芸術活動の情報発信と交流の機会の充実

2 人口・高齢化・コミュニティ

ポテンシャル

○ 定住人口増加の可能性

本エリア全体では人口減少や高齢化が進展する傾向にあるものの、京都駅周辺や、七条通沿いの烏丸通から河原町通までの間など、本エリアの一部においては、人口が大きく増加しており、今後もその傾向が続く可能性があります。

○ 崇仁学区における市有地の活用

崇仁学区において、住宅地区改良事業*の推進に伴い、将来的に発生する当該事業以外の用途に利用することが可能な市有地（以下「将来活用地」といいます。）については、その新たな活用が期待されます。

○ 地域が主体となったコミュニティ活動

各学区における自治会の活動をはじめ、寺社や、京都の舟運を担ってきた高瀬川、鴨川に架かる現存最古の橋梁である七条大橋など、地域性、歴史性を持った地域資源を保全・活用するまちづくりが行われています。

○ 芸術系大学と地域との交流や協働によるまちづくり

京都市立芸術大学、京都美術工芸大学では、地域との協働によるまちづくりに取り組まれており、地域の小学校での作品制作や展示会の開催、地域のイベントにおける演奏会への出演など、芸術系大学の特色を活かした地域との交流が進められています。

* 崇仁学区においては、昭和28年から不良住宅地区改良法（戦前の住環境整備の基本法。昭和35年制定の住宅地区改良法施行により廃止）、昭和35年から住宅地区改良法を適用して、改良住宅の建設等による住環境の改善を行う住宅地区改良事業が進められています。

課題

● 人口減少、高齢化の進展への対応

本エリア全体では、全市的な傾向と同様、人口減少や少子高齢化の傾向にあります。とりわけ、崇仁学区においてはその傾向が顕著であり、その進展に歯止めをかけるための対策が必要です。また、崇仁学区の市営住宅においては、空き家や住環境に係る課題があります。

● 崇仁学区の将来活用地の活用の検討

崇仁学区において、住宅地区改良事業の早期完了を図るとともに、事業を進める中で生み出される将来活用地の活用のあり方について検討する必要があります。

なお、この場合は、住宅地区改良事業の用地として取得する際に交付された国庫補助金の返還などの課題について留意する必要があります。

● まちづくり活動と地域コミュニティの更なる活性化

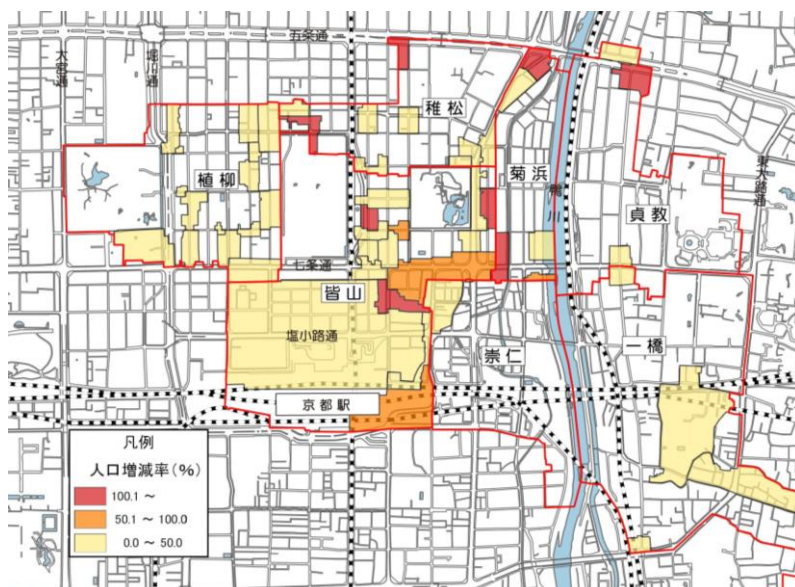
これまで培われてきた地域が主体となった活動や芸術系大学との協働によるまちづくりについては、今後、更なる活性化が期待されます。

● 空き家への対策

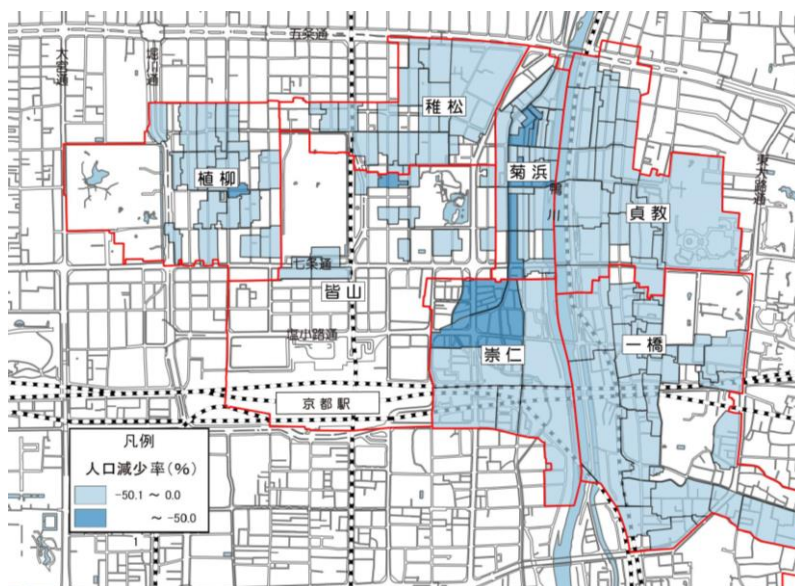
下京区や東山区の空き家率は、全市平均の値より高くなっています。とりわけ、東山区の空き家率は高齢化率とともに全市で最も高くなっています。空き家の増加は、防災上、防犯上又は生活環境若しくは景観の保全上、多くの問題を生じさせ、さらには、地域コミュニティの活力を低下させる原因の一つにもなっており、その対策が必要です。

■ 京都駅東部エリアの人口増減率（平成12年から平成27年の推移）

増加したエリア



減少したエリア



※出典：国勢調査

3 集客・観光・地域資源

ポテンシャル

○ 魅力的な歴史・文化資源や潤い資源などの存在

世界遺産や国宝、重要文化財である東・西本願寺や三十三間堂、豊国神社、京都国立博物館など、魅力的な歴史・文化資源が数多く存在しています。また、鴨川、高瀬川といった京都を代表する潤い資源があります。

京仏壇、京仏具、京焼・清水焼、京扇子、茶筒、京真田紐、和蠟燭など、様々な伝統産業の事業所が立地し、かつての門前町らしさや伝統文化が息づく町並みを形成しています。



※出典：京都観光Navi (Webサイト)

○ 「崇仁新町」など新しい賑わい創出の動き

本エリア内では、「崇仁新町」など、新たな賑わい創出の動きがみられます。これらの動きは地域のまちづくりに芸術系大学が協力することにより、進められています。



崇仁新町

○ 京都駅周辺における商業機能の集積

京都駅周辺においては、大型商業施設などの集客施設や宿泊施設が多く立地し、商業機能が集積しています。また、本エリア内には、七条通沿いをはじめ、多くの商店街があります。

○ 京都駅と市内観光地等への充実した交通網

京都の玄関口・京都駅があり、京都駅を起点とする鉄道・路線バス等の交通網により、市内観光地等へのアクセスが充実しています。



京都駅

課 題

● 回遊性の向上や賑わいの創出

交通ターミナル機能を有し、商業機能が集積する京都駅周辺から、東山の文化エリアや歴史的都心地区（四条通、烏丸通、御池通、河原町通で囲まれたエリア）までをつなぐ回遊性を高め、商店街の活性化など、本エリア全体で賑わいを創出していく必要があります。

● 観光と市民生活との調和

観光の場所、時間等の分散化により観光地の混雑を緩和し、観光満足度を高めるなど、観光と市民生活との調和が課題となっています。

4 文化芸術

ポテンシャル

○ 芸術系大学や文化芸術に関連する施設等の存在

本エリア内には、平成29年4月に元貞教小学校跡地に開校した京都美術工芸大学があり、平成35年度（2023年度）には京都市立芸術大学が移転する予定です。

これらの芸術系大学が立地する周辺には、工房、アトリエや伝統産業の事業所など、文化芸術に関連する施設等が立地しています。



京都美術工芸大学京都東山キャンパス

○ 文化芸術や伝統産業など、様々な分野の担い手の存在

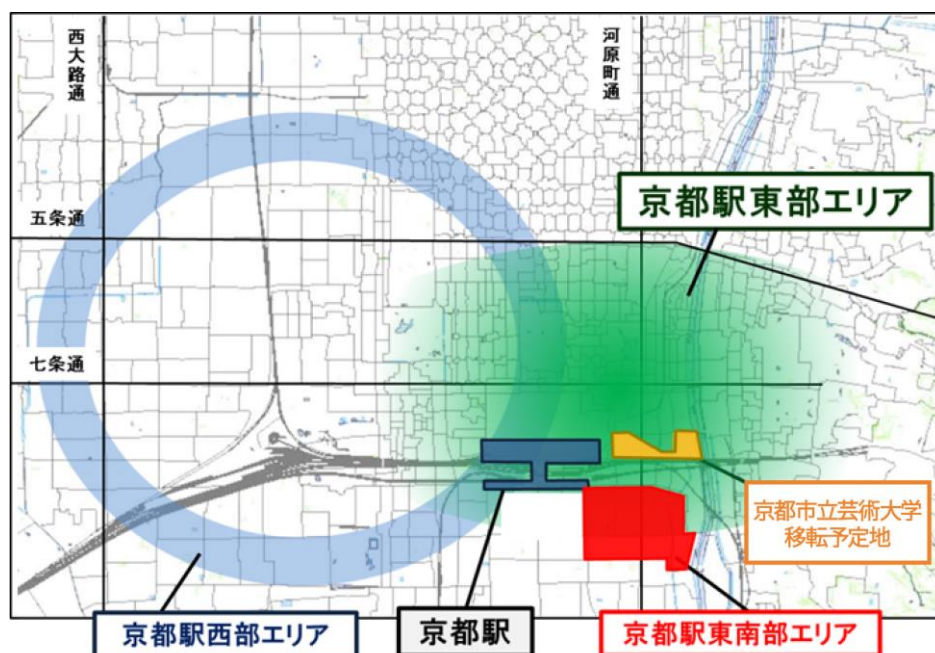
文化芸術や伝統産業など、様々な分野において、京都美術工芸大学の学生をはじめ、芸術家、クリエイターや伝統工芸の職人など、その担い手が活躍しています。また、平成35年度（2023年度）には、京都市立芸術大学の学生も本エリアにおいて活動します。

○ 芸術系大学の立地によるその周辺の都市景観の向上

芸術系大学等が、京都駅の至近にあり、かつ、鴨川など豊かな自然に囲まれたエリアに立地することにより、その周辺の都市景観の向上が期待できます。

○ 京都駅西部エリア・京都駅東南部エリアとの連携

京都駅東部エリアと隣接する京都駅西部エリア・京都駅東南部エリアとの連携により、「文化芸術活動と産業の融合」や「雇用の創出」、「国内外からの新たな人の流れの創出」、「文化芸術とまちの共生」の実現を目指します。



京都駅西部エリア…多彩な地域資源をつなげ、京都の新しい賑わいを創出するまち

京都駅西部エリアは、梅小路公園をはじめ、京都市中央卸売市場第一市場や京都リサーチパーク、商店街、寺社、大学といった地域資源が集積し、歴史あるもの“京都らしさ”と時代の最先端を行くもの“新しさ”が併存しているエリアです。

京都駅西部エリアでは、これらの多彩な地域資源をつなげ、「居住」「業務」「集客」それぞれの面で、京都の新しい賑わいを創出することを目指し、様々な取組が進められています。

これらの取組、特に京都リサーチパークや産業技術研究所を核とするソーシャルビジネスやものづくりの成果と、様々な分野の担い手づくりや京都駅に近接する立地を活かした新たな賑わいの創出など、本エリアの取組とを連携させることができれば、本エリアの活性化を強力に推進することができます。

京都駅東南部エリア…「文化芸術」と「若者」を基軸としたまちづくり

京都駅東南部エリアは、京都駅東部エリアに隣接する立地特性等を踏まえ、エリアのまちづくりに「文化芸術」という新たな視点を取り入れることにより、「新たな価値を生み出す創造・発信拠点」の誘致等に取り組み、若手芸術家をはじめとする若者を呼び込み、文化芸術の「創作、発信」を進めるエリアとして位置付けています。

このように、若手芸術家等が創作・創造活動を行い、発信していく場である東南部エリアと本エリアがそれぞれの特色を活かしながら、人の往来や交流も含めた相乗効果を生むことで、京都駅周辺に「文化芸術都市・京都」の新たな文化ゾーンを創出していくことができます。

課 題

● 文化芸術や伝統産業など、様々な分野の担い手が活躍できる環境整備

本エリアには、文化芸術や伝統産業など、様々な分野の担い手が存在します。

“芸術家だからこそできること”や、“芸術家に求められていること”などを広く発信することにより、これらの担い手、とりわけ若手芸術家や若きクリエイター等の活躍の場を広げ、収入を得ることにつながる環境づくりを推進することが必要です。

● 文化芸術活動の情報発信と交流の機会の充実

文化芸術を通じて、人々の心のつながりや相互理解を促進し、心豊かな社会を形成するため、様々な文化芸術活動の情報を発信していくとともに、市民と芸術系大学の学生や芸術家、クリエイター等との交流の機会を充実していく必要があります。

Ⅲ 京都駅東部エリアの将来ビジョン

京都市立芸術大学の移転などを契機として、文化芸術を創造し、国際的に様々な人が集い、交流し、まちが賑わい、世界に発信する、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンを創生し、過去、現在の時間を紡ぎ、新しいまちの未来を拓くため、本エリアの将来ビジョンを掲げます。

■京都駅東部エリアの目指すべき将来ビジョン及び将来像

●将来ビジョン

「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンを創生し、
人と人、人と地域がつながるまち

●将来像

子ども・若者から高齢者まで、
安心・安全に暮らし、
誰もが集い、交流し、
活力のあるまち

京都の玄関口・京都駅及び
その周辺と東山の文化エリア
を結ぶ立地にふさわしい、
賑わいのあるまち

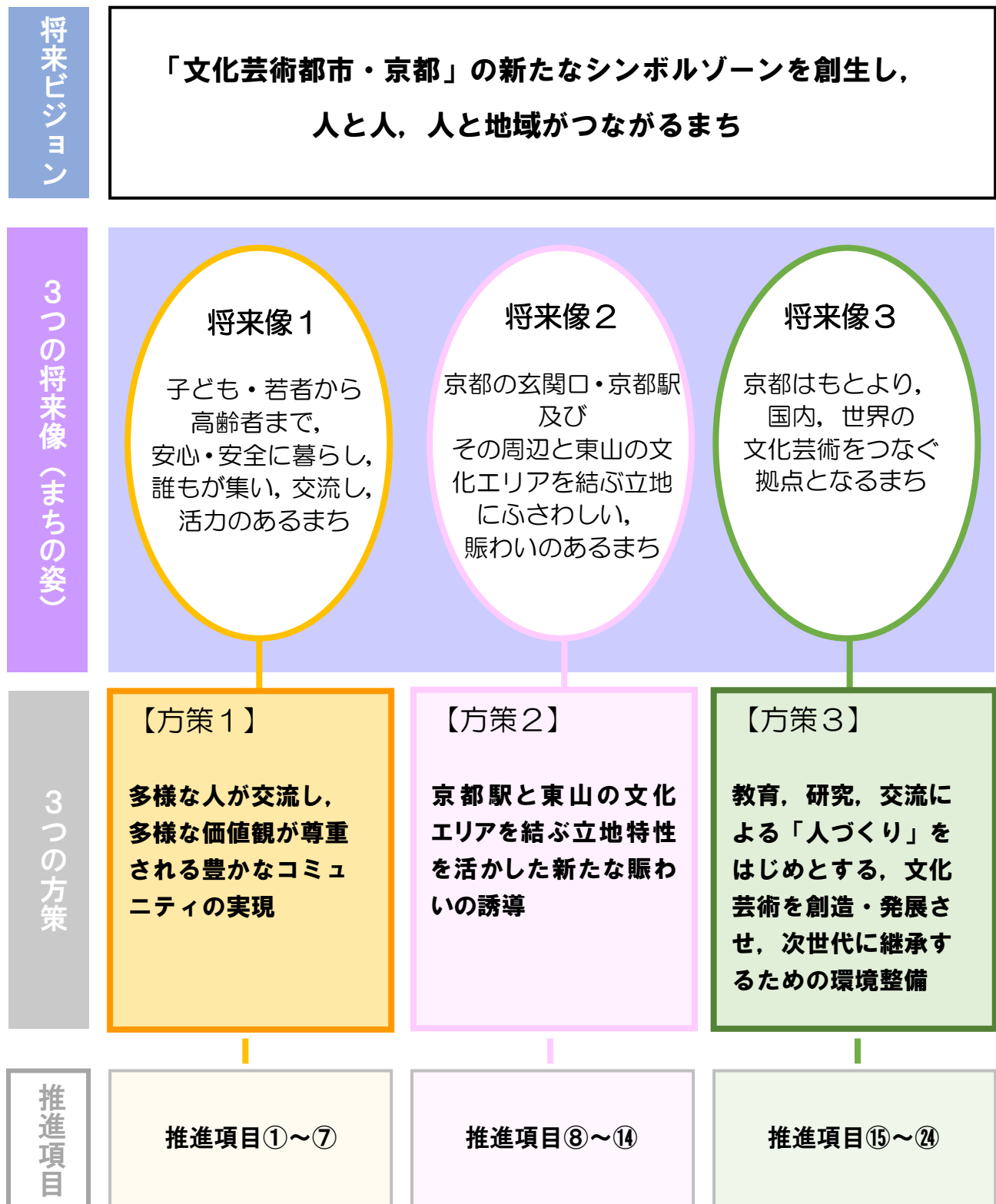
京都はもとより、
国内、世界の文化芸術をつなぐ
拠点となるまち

Ⅳ 将来ビジョンを実現させるための方策

1 3つの方策

将来ビジョンを実現するため、3つの方策を推進します。

構想の全体像



2 推進項目

【方策1】多様な人が交流し、多様な価値観が尊重される豊かなコミュニティの実現

誰もが文化芸術を創造し、享受することができる環境づくりなど、文化芸術が持つ力を活かしたまちづくりを推進することにより、本エリアへの定住を促進するとともに、まちづくりの担い手の育成を支援します。

また、住民同士や住民と学生、訪れる方との交流を促し、相互理解を深めることにより、安心・安全で豊かなコミュニティの実現を目指します。

推進項目①

誰もが文化芸術活動に参画できる環境の推進

子どもから高齢者、障害のある方まで誰もが文化芸術活動に参画することができるよう、教育、福祉その他の分野とも連携した体験型イベントの開催など、アウトリーチ活動*を推進します。

また、誰もが文化芸術を学び、制作し、発表することができる場づくりや文化ボランティアへの参加の促進など、文化芸術を創造し、支える環境の充実を図ります。

* 出前授業、出張講座等、利用者のもとへ出向いて実施する様々な教育普及活動のこと

取組例

大学と地域との協働による文化芸術活動の推進

京都市立芸術大学では、下京渉成小学校において、空き教室をアトリエとして活用する「渉成レジデンス」を実施しています。

また、京都美術工芸大学では、学生が製作した椅子を大学の近隣にあるホテルのロビーに展示するなど、大学と地域が協働した取組が進められています。

誰もが身近で文化芸術活動に触れることができる環境づくりを推進します。



京都市立芸術大学の在学生・卒業生が下京渉成小学校の空き教室をアトリエとして活用する「渉成レジデンス」



京都美術工芸大学の学生が製作した椅子の展示
(ハイアットリージェンシー京都)

子どもたちが文化芸術や伝統産業に触れ、学び、体験する機会の提供

小中学校に芸術家や伝統産業の職人を派遣し、出張授業や体験教室等を行うことにより、子どもたちが文化芸術や伝統産業に触れ、学び、体験する機会を創出します。



ようこそアーティスト文化芸術とくべつ授業（陶芸）



ようこそアーティスト文化芸術とくべつ授業（華道）

文化ボランティア活動の推進

市民や芸術家、企業等で文化芸術活動をサポートできる方を文化ボランティアとして登録し、サポートを必要とされる市民や芸術家、企業等との橋渡しを行うなど、人と人をつなぎ、文化芸術活動を支える環境を充実します。

推進項目②

地域資源や自然環境を保全・活用したまちづくりの推進

地域資源や自然環境を保全・活用するまちづくり活動を推進します。

また、地域性、歴史性を持った、芸術的、学術的価値の高い文化財の継承、活用を通じて、地域への愛着、誇りを高めるまちづくりを促進します。

現在の取組例

高瀬川とまちづくり活動

高瀬川は、京都と伏見をつなぐ水運として、慶長19年（1614年）に角倉了以と素庵によって開削され、人々の生活とまちの発展を支えてきました。

「菊浜高瀬川保勝会」や「崇仁高瀬川保勝会」では、月1回、高瀬川の清掃を行い、子どもたちの環境学習などにも取り組まれています。



高瀬川

七条大橋の魅力を高めるまちづくり活動

七条大橋は、鴨川に架かる現存最古の橋であり、大正期のモダンデザインを残すなど、地域の個性的な景観を形成し、市民の誇りとなっている貴重な文化財産であり、平成31年（2019年）に国登録有形文化財に登録されます。

「七条大橋をキレイにする会」では、毎月7日に七条大橋の清掃活動に取り組むとともに、「七条大橋ライトアップ」事業を実施するなど、七条大橋を大切にされるとともに、その景観的価値を高めるための様々な活動を実施されています。



七条大橋

推進項目③

芸術資源や地域情報の収集・保存・活用

芸術資源，地域情報等のデジタルアーカイブ化を支援し，教育研究分野や地域の担い手育成など，幅広い活用に向けた取組を推進します。

取組例

芸術資源等のデジタルアーカイブ化の推進

京都市立芸術大学等において，芸術作品や，地域の風景，まちづくりの記録など，地域情報のデジタルアーカイブ化に取り組み，その創造的な活用を推進します。

推進項目④

交流スペースとしての公共空間の活用

鴨川，高瀬川や歩道，京都市立芸術大学敷地内の広場など，公共空間を活用して，住民，学生をはじめ，多様な人の交流する場を創出します。

取組例

京都市立芸術大学敷地内の広場の利用

高瀬川沿いのオープンスペースや柳原銀行記念資料館を活用して，地域との交流が進められるよう整備します。

京都市立芸術大学・京都市立銅駝美術工芸高等学校基本設計イメージパース



推進項目⑤

子育て世帯等の市営住宅入居促進

人口減少や高齢化の進展に対応し、地域の活性化を図るため、子育て世帯の市営住宅の入居を促進します。

また、市営住宅の空き部屋を若手芸術家の制作、居住の場として活用します。

推進項目⑥

空き家対策の推進

安心・安全な生活環境の確保、まちづくり活動の促進、良好な景観の保全及び地域コミュニティの活性化のため、空き家の発生の予防や活用・流通を促します。

また、若手芸術家などの居住・制作・発表の場としての空き家や空き店舗の活用を推進します。

取組例

地域主体の空き家対策の推進

空き家の発生の予防、活用及び適正な管理によって、地域が活性化することを目指し、空き家所有者や活用希望者が安心して活用できる環境を整備するため、京都市地域連携型空き家対策促進事業など、地域主体の空き家対策の取組を支援します。



推進項目⑦

住宅関連事業の推進と将来活用地の活用

崇仁学区において、住宅地区改廃事業などの早期完了を目指して取組を進め、これらの事業で生み出される将来活用地の活用のあり方を検討します。検討を通じて、住み続けられ、共に暮らすまちづくりの推進と「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生にふさわしい、新たな創造・交流・賑わいにつながる機能の導入を目指します。

導入する機能の方向性

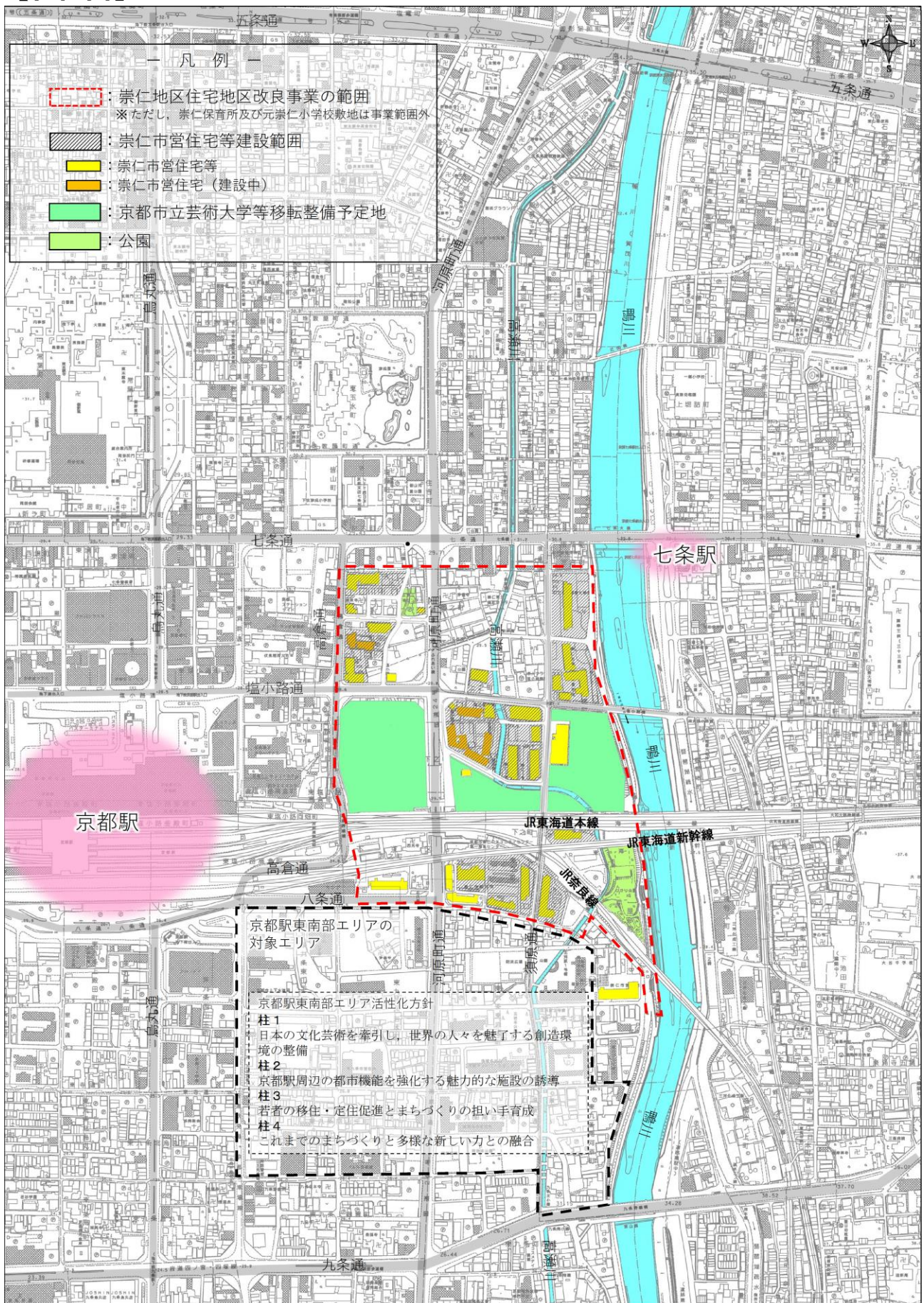
京都市では、広く世界と文化的に交わることにより、優れた文化を創造し続ける、永久に新しい文化都市としてのまちづくりを進めています。

崇仁学区において創出する将来活用地は、京都の都心部では極めて希少な活用可能用地です。また、その活用に当たって、世界と京都をつなぐ玄関口・京都駅との近接性や京都市立芸術大学の移転整備、京都駅東南部エリアとの結節点などの立地条件やポテンシャルを最大限に活かす必要があります。

そのため、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生に向けて、文化芸術と経済、大学、まちづくり、教育、福祉など、様々な分野の融合により、新たな魅力や価値を創出する機能を誘導するための検討を進めます。

併せて、人口減少や少子高齢化にも対応し、地域で暮らす誰もが安心して住み続けられるまちづくりを推進するため、生活を支える商業・医療・福祉・業務などの機能の充実に向けて、活用を検討します。

【位置図】



【方策2】京都駅と東山の文化エリアを結ぶ立地特性を活かした新たな賑わいの誘導

京都駅から東山の文化エリアや市内中心部を結ぶ本エリアの利便性の高い立地特性を活かし、文化芸術・伝統産業の振興に資する新たな魅力や賑わいの創出に取り組みます。これにより、本エリアや、隣接する京都駅西部エリア、東南部エリアをはじめ、京都駅周辺ひいては京都全体の活性化に寄与します。

また、文化芸術と観光をはじめとする関連分野とを連携させることにより、経済的な価値を創出し、持続的な文化芸術の発展と経済成長の好循環を生み出します。

推進項目⑧

新たな賑わいの創出と商店街及び周辺地域の活性化

芸術系大学の学生のアイデアなどにより、地域のまちづくりや商店街の活動と文化芸術とを融合させた新たな賑わいづくりを推進するなど、商店街及び周辺地域の活性化を図ります。

取組例

崇仁北部第四住宅地区改良事業用地の暫定活用による新たな賑わいづくり

河原町通塩小路北西角の事業用地において、民間活力を活用し、地域における新たな賑わいづくりや地域コミュニティの活性化につながる暫定活用を行います。

<事業概要>

毎週土曜日及び日曜日に、イベントスペースでのパフォーマンスや、物品販売、飲食など、60店舗以上を集めたマーケットを展開します。新しいブランドを立ち上げる若者や個性的な個人事業者等が参加することで、京都の事業者を中心に、この場所から新しい潮流・文化を生み出します。



推進項目⑨

歴史的・文化的建造物等の活用

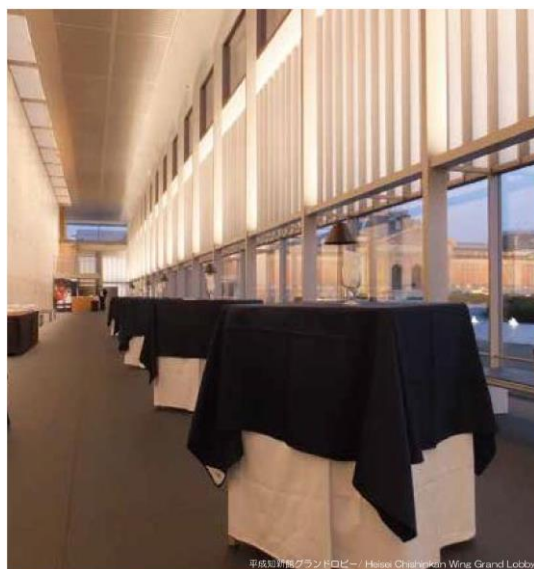
会議やレセプションなど、様々な機会を通じて、美術館や博物館、歴史的建造物などを、“京都らしい”ユニークベニュー*として活用していくことを推進します。

*歴史的建造物や文化施設、公的空間等において、会議・レセプションを開催することにより、特別感や地域特性を演出できる会場

現在の取組例

京都国立博物館

平成知新館講堂や平成知新館グランドロビー、庭園を活用した様々なイベント、レセプションに対応しています。



※出典 「京都ユニークベニューガイド2018」(発行：公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー)

推進項目⑩

文化財等の活用による観光振興

寺社や施設等における朝の体験型メニューの充実や夜間開館など、新たな観光コンテンツの開発や積極的な観光情報の発信に取り組みます。

推進項目⑪

京都の文化に触れる機会の充実

修学旅行生や外国人観光客に対して、伝統産業や食文化などの体験型メニューの充実を図ります。

取組例

京都工房コンシェルジュ事業

伝統産業を体験したい市民や観光客等と工房の橋渡しを行い、職人の匠の技・心に触れ、伝統産業を見て、触れて、買える機会を充実します。



推進項目⑫

文化芸術に関するイノベーションの創出や伝統産業の振興

文化芸術と産業技術の研究機能を融合することにより、新たな技術や商品を開発し、これらに触れ、購入できるようにするなど、文化芸術に関するイノベーションや伝統産業の振興を促進します。

また、文化芸術作品等の制作に係る資材等のリサイクルの仕組みを検討します。

推進項目⑬

文化芸術を“五感”で感じながら、安心・安全で楽しく回遊できる環境づくり

沿道のギャラリーや潤いを感じられる歩行空間など、訪れる人が歩きながら文化芸術を“五感”で感じることでできる魅力あふれる空間を創出します。

また、便利に移動できるよう、多様な移動手段を活用することにより、更なる利便性の向上に取り組みます。

取組例

塩小路通沿いにおけるギャラリーの設置

京都市立芸術大学の1階にギャラリー@KCUAと芸術資料館を配置し、塩小路通沿いにおいて大学の芸術活動を発信するとともに、京都駅から東山の文化エリアまでをつなぐ歩行空間の魅力向上を図ります。

京都市立芸術大学・京都市立銅駝美術工芸高等学校基本設計イメージパース



京都市立芸術大学周辺における歩道の拡幅等

京都市立芸術大学の移転整備に伴い、大学周辺において、安心・安全で、快適な歩行空間を確保するため、歩道を拡幅します。また、無電柱化を検討します。

シェアサイクル機能の充実

民間事業者によるシェアサイクルの拠点の充実など、より便利な移動環境づくりを推進します。

推進項目⑭ （推進項目⑦再掲）

住宅関連事業の推進と将来活用地の活用

【方策3】教育、研究、交流による「人づくり」をはじめとする、文化芸術を創造・発展させ、次世代に継承するための環境整備

芸術系大学をはじめ、多彩で魅力的な文化芸術資源が集積し、京都における文化芸術の創造と継承の土台となる「人づくり」を担う本エリアのポテンシャルを活かし、教育、研究機能の充実や、更なる世界との交流や発信を推進し、「文化首都・京都」の都市格向上を力強く牽引します。

推進項目⑮

多様な創造活動拠点としての世界に向けた発信

京都市立芸術大学を核とし、国内外の教育・研究機関との連携により、学術、研究、交流を活発化させ、世界に向けた発信力を高めます。

推進項目⑯

文化芸術活動を活かした国際交流の促進

世界中の芸術家が京都に集い、共同で制作したり、発表できる場を創出することにより、市民や国内外から訪れる方との国際的な交流を促します。

推進項目⑰

文化芸術・伝統産業など様々な分野における多様な担い手の育成

芸術系大学の学生をはじめ、若手芸術家、若きクリエイターや伝統工芸の職人など、多様な担い手の育成を、地域や芸術系大学、事業者、行政等が協力して支援します。

取組例

東山アーティスト・プレイスメント・サービス(H A P S)による若手芸術家等の支援

H A P Sでは、若手芸術家等の様々な相談に対応する総合サポート窓口を設置しており、芸術に適した空き家の紹介や制作場所の提供、専門家のネットワークによる発表活動の支援、アーティストの“仕事”コーディネートなど、若手芸術家等が地域に根差した活動を行えるような取組を推進します。



推進項目⑱

先進的な研究・創造活動に取り組む場の創出

文化芸術を核に、科学・医療・福祉・産業技術など、ジャンルを越えた交流や協働の機会を創出します。

推進項目⑲

文化芸術の発信の場としての公共空間の活用

芸術系大学周辺の歩道、鴨川・高瀬川や駅周辺など、公共空間を文化芸術作品の展示、演奏やパフォーマンス等の発信の場として活用します。



推進項目⑩

芸術系大学と施設の連携による文化芸術の振興

芸術系大学と文化芸術関連施設や寺社等が連携し、文化芸術の振興を推進します。

取組例

共通のテーマを持った展覧会の開催

芸術系大学と京都国立博物館をはじめ市内各地の文化芸術関連施設が連携し、共通のテーマのもと、展覧会を開催することを検討します。

推進項目⑪

京都市立芸術大学・京都市立銅駝美術工芸高等学校の移転整備に伴う都市景観の向上

施設の形状、色彩、デザイン、外観など、移転整備により、鴨川・高瀬川をはじめ、周囲の景観と調和した都市景観を創出します。

取組例

京都市立芸術大学・京都市立銅駝美術工芸高等学校の移転整備

鴨川・高瀬川の岸边景観、東山の眺望などの地域の景観特性や、周辺の住環境への影響などを十分に考慮するとともに、地域のまちなみ景観形成への寄与や都市デザインの観点からキャンパス全体と各施設の建築デザインを総合的に検討し、京都における新たな景観の創造に向けて整備を行います。

京都市立芸術大学・京都市立銅駝美術工芸高等学校基本設計イメージパース



推進項目②

京都駅東部エリアにふさわしい施設の誘導

本エリアを含む京都駅周辺エリアは、「京都市持続可能な都市構築プラン」(案)において、京都の都市活力を牽引する「広域拠点エリア」に位置付け、京都駅の周辺で新たなまちづくりが進む地域では、文化・芸術を基軸としたまちづくりが更に進み、若者や多様な人が集い、暮らし、学び、働き、交流することにより、人々を惹きつけているとの将来像を掲げています。

また、七条駅周辺を、定住人口の求心力となる「地域中核拠点エリア」に位置付けるとともに、京都を代表する文化施設や大学、観光資源などに近接する拠点としています。

こうした位置付けを踏まえ、「日本の文化芸術を牽引し、世界の人々を魅了する創造環境の整備」に資する「新たな価値を生み出す創造・発信拠点」の誘致など、「京都駅東南部エリア」の取組と連動させながら、本エリアにふさわしい施設の誘導を検討します。

推進項目③

文化庁と連携した文化芸術の発信

文化庁と連携し、京都の文化や芸術、文化財など、「文化首都・京都」の多様な魅力を発信します。

推進項目④（推進項目⑦再掲）

住宅関連事業の推進と将来活用地の活用

V 構想実現に向けて

1 多様な主体による将来ビジョンの共有

構想の実現に向けて、市民、地域、大学、事業者など、様々な、多くの主体が、構想に示されたまちの将来像を共有し、今後、本エリアの周辺も含めて大きく変容するまちの姿をイメージしながら、共に活性化に取り組みます。

また、本エリアの活性化の核となる京都市立芸術大学の移転が構想の期間中に予定されています。移転までの間と移転後のそれぞれの時期において、できることから、活性化の取組を進めます。

2 多様な主体の連携によるまちづくり

各方策の推進に当たり、行政のみならず、市民、地域、大学、事業者など、様々な主体が携わることにより、例えば、空き家への対策において、空き家の活用が、地域の防災・防犯の向上や、若者の定住促進とまちづくりの担い手育成、さらには若手芸術家の創造環境づくりにもつながっていくなど、本エリアのレジリエンス（危機にしなやかに対応し、持続・発展する力）が高まるとともに、活性化に大きな効果が期待できます。

そのため、より多くの多様な主体が、「京都市立芸術大学を核とした崇仁エリアマネジメント」をはじめ、本エリアのまちづくりを推進する団体の活動に参加するなど、緩やかに連携して活性化に取り組みます。

3 構想の実現に向けたプロセス

芸術系大学の学生や若手芸術家、若きクリエイターなど、多様な担い手が、身近な場所において、文化芸術活動や文化芸術とまちづくりを融合させた創造的な活動を行うことができるよう、地域や芸術系大学、事業者、行政等は協力してこれらの活動やその環境づくりを支援します。

まちに小さな変化を生み出し、そのプロセスや成果を大切に積み重ねていくことにより、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生を目指します。